

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	高等教育推進センター(教務機構)
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2010年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価			
		2010	2011	2012	2013
1. 高等教育推進センターの学内外の認知度を向上させるため、研究紀要(年1回)・ニュースレター(年4回)を発行する。	→ 1. 研究紀要・ニュースレターの発行数	A	A	A	/
2. 社会への説明責任(USR)を果たすため、授業調査を毎年実施し、実施結果を学内外に公表する。	→ 2. 授業調査の実施状況、および、結果の公表	B	B	B	/
3. 教授者－学習者支援システム(LUNA)を普及・定着させる。2013年までに教授者の利用率を30%とする。	→ 3. 教授者の利用率	B	A	A	/
4. 高等教育に関する研究を充実させるため、研究助成などを行い、研究論文・事例研究を年10本公表する。	→ 4. 研究論文・事例研究の発表数	B	A	A	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/
	→	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	昨年度に引き続き3月に研究紀要「関西学院大学高等教育研究」3号を発行した。ニュースレターについては、「FD NEWS LETTER」「ICT NEWS LETTER」を統合した「高等教育推進センターニュースレター」を、11月に3号、3月に4号を発行した。
目標2	授業調査について、2012年度は、マークシート・Webを併用して、全科目を対象に統一方式で実施した。報告書については、従来はレーダーチャートのみを学生・教職員に公開していたが、今年度は報告書(レーダーチャートを含む)を学生・教職員に公開した。学外への公表については、引き続き検討を行っている。なお、報告書には、各授業提供部署からの「集計結果に対するコメント」および「授業改善の具体的な方策(組織的なFD活動)」もあわせて掲載した。
目標3	LUNAの「お知らせ・教材・掲示板」などへアクセスを行っている専任教員は60.9%(594名中362名・前年度59.4%)、「お知らせ・教材・掲示板」に教材や連絡事項が掲載されている科目数は、35.7%(9665科目中3454科目・前年度34.6%)であった。
目標4	「関西学院大学高等教育研究」第3号に、研究論文1本、研究ノート6本、実践研究報告3本、計10本発表した。
備考	